

東南アジアの野生動物

話のながれ

研究紹介

東南アジアの鹿猿

鹿の進化

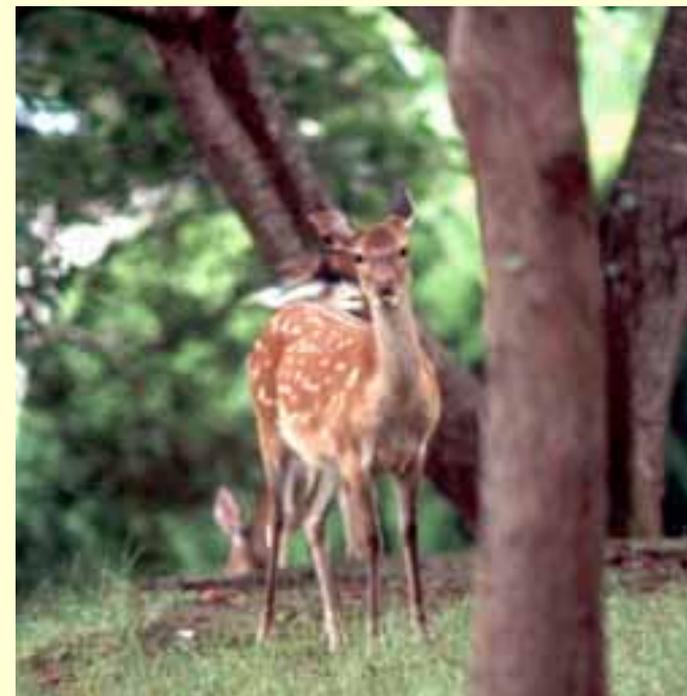
自然観と宗教

暮らしを再考

暮らしを変える



自己紹介



大阪生まれ、東京育ち

ボーイスカウトに入りたくて、キリスト教会へ

生物学科→林学科

専門は哺乳類学・野生動物保護管理学

千葉県生物多様性センター（害獣対策）

千葉県佐倉市の農村くらし5年目の冬

研究テーマ：房総半島のニホンジカ

食べ物と栄養評価

体の大きさと脂肪

行動パターン

繁殖力

個体群増加パターン

北海道や東北との南北比較



結論) 房総のシカは・・・

暖かい気候・常緑樹林

冬にも栄養失調にならない

オスだけは、繁殖期に脂肪を蓄える

体が小さくていい

角も小さくていい

群れも小さい

房総半島には外来生物キョンも！



- シカ科の小型種
- 東南アジアの森
- 大きさは柴犬くらい
- 角は短く 2 尖
- 牙をもつ
- においを出す臭腺
- テリトリー・一夫一婦
- シカのルーツに近い

ニホンジカの亜種

Cervus nippon

エゾシカ

ホンシュウジカ

キュウシュウジカ

ツシマジカ

ヤクシカ

マゲジカ

中国亜種

ベトナム亜種

南のシカを見に行こう

ベトナム シカ探し



→野生個体は
ほぼ絶滅している？



東南アジアにシカ・サルを観にいく



2000年 ベトナム

2001年 (南アフリカ)

2002年 マレーシア

2003年 インドネシア

2004年 タイ

2006年 マレーシア

2007年 インドネシア

インドネシア 2003年



バリ島

バリ西部国立公園

ジャワ島

バルラン国立公園

スラウェシ島

タンココ自然保護区

バリ島







ヒンズー教

いたるところに、神々が

森林内の水場でケモノを待つ



ホエジカ（キヨンの仲間）





イノシシ





バリ島 2日目 丘陵



丘陵へトレッキング

山頂には山寺

親戚一同で何かの祈禱をしていた



豚の丸焼き 楽しげ

下山して昼食

海沿いのレストランへ
昼食（テンペ付）



バリ島 3日目 ジャワ島へ移動

ジャワ島のクタパン港へ



ジャワ島 バルラン国立公園



樹木が少ない

アフリカのサバンナ環境
「アフリカン・インドネシア」



トレッキング

15:20 トレッキング開始 ドール (wild dog) の糞
ルサジカの群れ：オス2～3頭＋メスは20～30頭

ハーレム形成



カニクイザル



観察タワーで夜明けを待つ

ロッジ脇にある観察タワーに上って、

夜明けを待つ



動物たちの行動開始の鳴き交わし
遠くにルサジカ群れの行進



スラウェシ島 タンココ自然保護区



夜に極小サルを見に行く

スラウェシメガネザル



夜行性で目が巨大
全長30cm





A dark brown squirrel is perched on a tree branch, illuminated by a flashlight beam. The squirrel is facing right, and its body is mostly in shadow. The flashlight beam is a bright, circular area of light on the right side of the image, highlighting the texture of the tree bark and the squirrel's fur. The background is dark and out of focus.

枝から枝までジャンプするための、足
垂直飛び 6 m



バランスをとるための尾





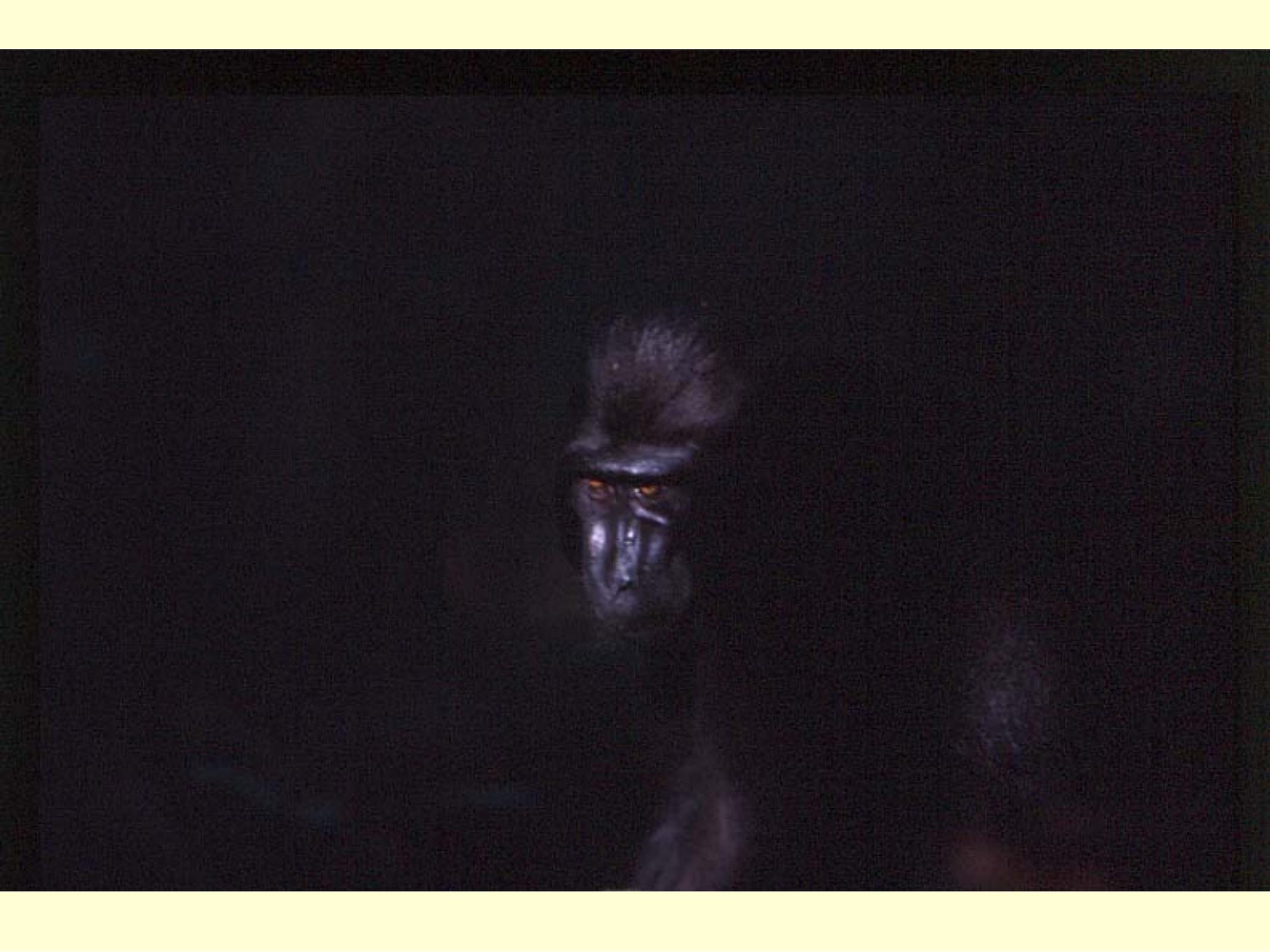
森林性 单独性 昆虫食 夜行性

明け方にも、サルを見に行く

クロザル









群れ社会
森林性



シカ、サルをもっと、もっ
と・・・

ボルネオ島



オランウータン





全長120～150 c m
草食（果実、若葉）
森林性



テングザル

海岸・川沿いの森林性
草食（果実、木の葉）
ハーレム性



群れ、草食



東南アジアのシカ（一部）

サンバー：森林～開放環境

ルサ：森林～開放環境（ジャワ・バリ）

バラシンガジカ：高い草本

アクシスジカ：群居性、森と草原の間に暮らす

ホッグジカ：やぶに隠れて暮らす

ホエジカ：高質な餌

南の多様性を生み出すもの

環境
食べ物
社会構造
体サイズ

環境の多様性



多様な種の
共存を可能



シカにとっての「南」

進化の初期のタイプ

温暖な常緑広葉樹林

餌が散在、年中ある

森の中は暗く、見通し悪い

メスは単独性

一夫一婦制が進化

テリトリー制：多くの個体が

少数の子孫を残す



北へ進出：寒冷適応

シカにとっての「北」

多雪な落葉樹林

餌が局所的、季節変動大

→季節移動（トナカイ4800km）

見晴らしがいい

メスは群れる＋オスも

シカにとっての「北」

オス間の競争が激しくなる

(大きい角と大きな体)

ハーレム性：少数の強者が子孫を残せる

生涯繁殖成功度のばらつきが大きくなる

「新自由主義」

環境の多様性が低い 競争が激化

種多様性が低くなる

バリ島で見た神々



ヒンズー教がもたらす多様性

多様な神
多様な動物

→多様な自然との付き合い方



日曜学校の欺瞞

アイヌの水の神の逸話

自然 = 神

多様な自然（神）との多様な付き合い方

そんな自然との付き合いを

日常に

したい

2006年移住



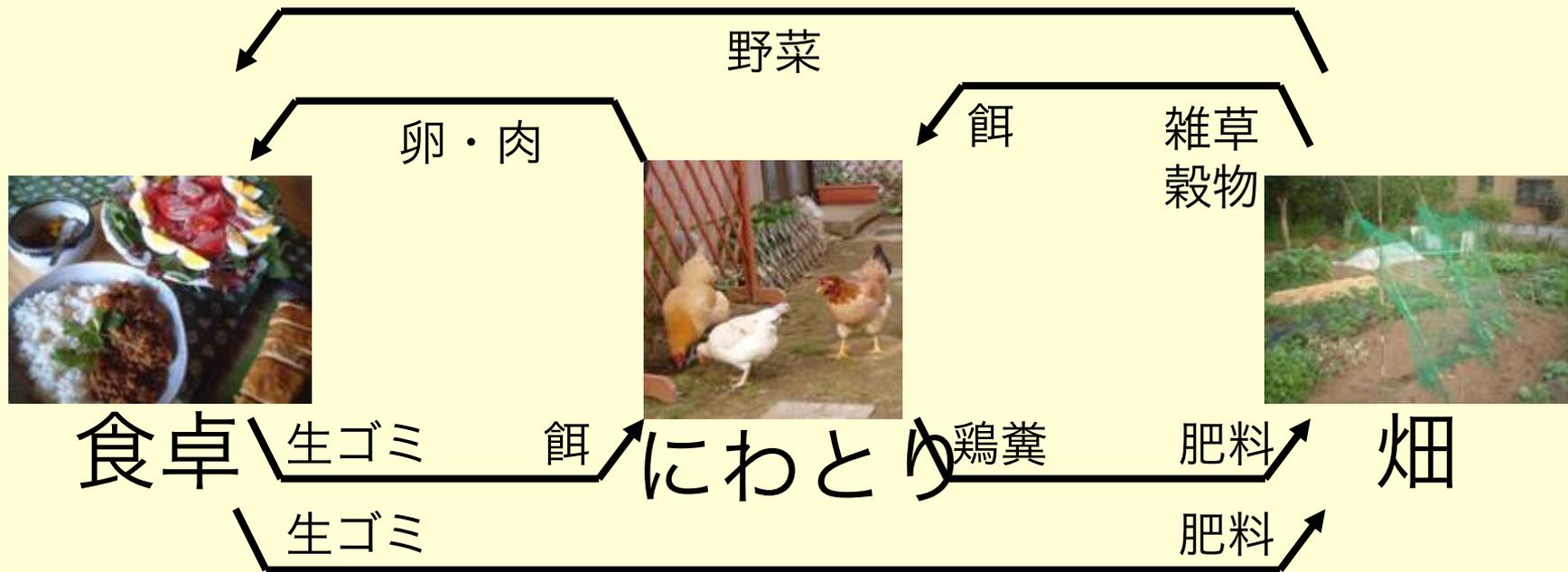
佐倉市の古くからの小さな城下町

築80年位の古民家つき340坪（小屋2棟、ハウス、車庫）

畑とニワトリの農的暮らしを開始

家庭養鶏

養鶏をすると・・・



養鶏により、自分たちの命が他の命で維持されることをより実感できる。

移住直後の周囲の対応

直後：不審者

空をとばない？

畑の初心者 ← 四方八方から大根

「ジャガイモ、作っている」

→ 「品種は

なんだ？」

野菜をあげる → 惣菜になって帰ってくる

資本主義経済の1階部分で物々交換経済

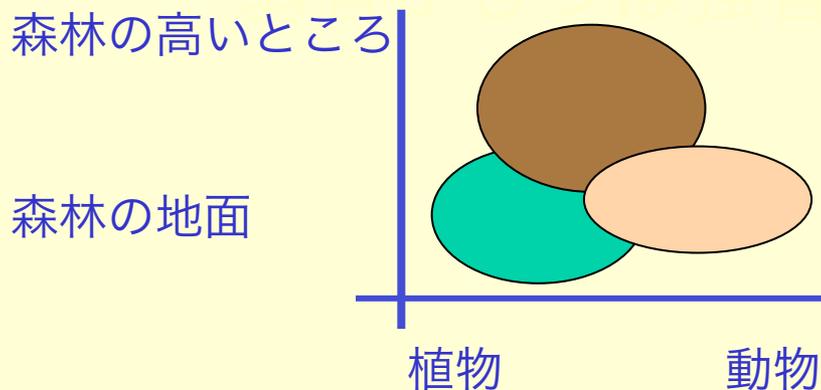


南の鹿が教えてくれたこと

多様な環境 → 多様な種が進化（共存＝競争回避）

評価のものさしがひとつではない（多次元空間）

多次元空間の許容力（“包容力”）



グレーゾーンの許容性

里山生物多様性とムラの暮らし

里山の生活が多様な生態系を守り、結果、人間社会も守られる関係 (SATOYAMA initiative)

単一な環境（広大な農地に単一作物）の農村では、質的な違いがないために、量的な評価になってしまう。

シカ社会と同じ構造が人間にもあるかもしれない

北方への進化 = グローバリゼーション（擬似的進化）？

生存基盤となる系の認識 と 環境の質と量

ライフスタイルの転換

里山の生物多様性保全＝伝統的農村

生物多様性の危機

開発

外来種

管理放棄

地球温暖化

伝統的農村社会が維持してきた生物多様性

→新たな農村社会の暮らし方を模索する